

特62
637



國語
科
教
授
要
領

明治
43. 6. 15
內交

編會究研術學育教

○各科教授要領

改訂國定教科書	修身科教授要領	全六冊	定價各金十八錢 郵稅各金二錢
改訂國定教科書	國語科教授要領	全十二冊	定價各金十八錢 郵稅各金二錢
改訂國定教科書	算術科教授要領	全六冊	定價各金十八錢 郵稅各金二錢
改訂國定教科書	歷史科教授要領	全二冊	定價各金十八錢 郵稅各金二錢
改訂國定教科書	地理科教授要領	全二冊	定價各金十八錢 郵稅各金二錢
改訂國定教科書	理科教授要領	全二冊	定價各金十八錢 郵稅各金二錢

則

國語ハ普通ノ言語、日常須知ノ文字及文章ヲ知ラシメ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼テ智德ヲ啓發スルヲ以ス要旨トス

尋常小學ニ於テハ初ハ發音ヲ正シ假名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ漸ク進ミテハ日常須知ノ文字及普通文ニ及ボシ又言語ヲ練習セシムヘシ
讀ミ方、書キ方、綴リ方ハ各々其ノ主トスル所ニ依リ教授時間ヲ區別スルコトヲ得ルモ特ニ注意シテ相聯絡セシメンコトヲ要ス

國語科教授要領尋常科

讀本ノ文章ハ平易ニシテ國語ノ模範ト爲リ且兒童ノ心情ヲ快活純正ナラシムルモノナルヲ要シ其ノ材料ハ修身、歴史、地理、理科其ノ他生活ニ必須ナル事項ニ取り趣味ニ富ムモノタルヘシ

女兒ノ學級ニ用フル讀本ニハ特ニ家事上ノ事項ヲ交フヘシ文章ノ綴リ方ハ讀ミ方又ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項兒童ノ日常見聞セル事項及ビ處世ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ其ノ行文ハ平易ニシテ旨趣明瞭ナランコトヲ要ス

書キ方ニ用フル漢字ノ書體ハ楷書行書ノ一種若ハ二種トス

國語科教授要領尋常科ニハ常ニ其ノ意義ヲ明瞭ニシ且既修ノ文字

ヲ以テ通常ノ人名、地名等ニ應用セシメ單語、單句、單文ヲ書取ラシメ若ハ改作セシメテ假名及語句ノ用法ニ習熟セシメンコトヲ務ムヘシ

他ノ教科目ヲ授クル際ニ於テモ常ニ言語ノ練習ニ注意シ又文字ヲ書カシムルトキハ其ノ字形及字行ヲ正シクセシメンコトヲ要ス

○新讀本の特異の諸點

- 一 字音假名遣ひの復舊したること
- 二 漢字の増加したること
- 三 特殊の國民的材料を加へたること
- 四 文學的趣味を添加したること
- 五 平假名を教授する前即ち第二卷に於て已に數字の外更に二十餘の漢字を提示し第三卷の平假名提示中は一切新漢字を提示せざるること
- 六 片假名の新提示を統べて範語法に依りしこと
- 七 濁音、半濁音の假名の提示は必ずしも清音全部の提示を待

- たず各其の清音に續きて之を提示したること
- 八 假名新字の提示を必ずしも名詞のみに於てせず形容詞動詞助動詞等に於ても之を爲したること
- 九 外國語の外は促音拗音共に通常の者と同様に直書したること
- 十 變體假名を第十卷及至十二卷に於て加へたること
- 十一 固有名詞の外は漢字の振假名を省さしこと
- 十二 社會の慣用並に常用に依り字劃の多き漢字又は六かしか漢字をも提示せること
- 十三 句讀の「、」點を減じ同一種類の語の並列せる中間に「・」點

を加へたること

十四 假名書きにせる外國の地名には右側に『』を施し人名には同じく——を施したること

十五 口語は訛音、卑語を除き略東京語を標準としたること

十六 多くの國民的童話傳説を加へたること

十七 謎、俚諺、金言を挿入したること

十八 高學年に於て抽象的訓誡の課を加へたること

十九 忠君愛國の精神を中心とし國民の堅實なる氣風を養成することを主眼とし大國民の品格を造らんと努めたること

○本科教授の要義

一、訛音の矯正に盡力すべし

二、方言の矯正に盡力すべし

三、音を正しく出し其の長短強弱大小に注意せしむべし

四、談話に熟達せしむることを要す

五、書取を勵行すべし

六、綴り方に於て新出文字の利用を十分ならしむべし

七、句讀法を正確にすべし

八、韻文、模範文等はよく暗誦せしむべし

九、多讀を獎勵すべし

- 十、綴り方の添削の周到を期すべし
- 十一、地理、歴史、理科の教材と連絡することを努むべし
- 十二、國語の形式(言語、文字、文章)と内容(事物)との主容を轉倒すべからず
- 十三、死語を棄て、現代の活語を用ゐしむる事に留意すべし
- 十四、新出文字の表を作り置かしめ時々之が總復習を爲さしむべし
- 十五、挿畫を十分に利用すべし
- 十六、細字の練習を重んずべし
- 十七、國民的思想の修養に注意すべし

改訂國定教科書 國語科教授要領 尋常科 第五學年

目次

- 教則
- 新讀本の特異の諸點
- 本科教授の要義
- 第一課 草薙劔 (一)……………一
- 第二課 草薙劔 (二)……………三
- 第三課 花ノサマ……………六
- 第四課 舞ヘヤ歌ヘヤ……………八

目次

第五課 註文狀……………一〇

第六課 利根川……………二

第七課 水兵の母……………一五

第八課 我が陸軍……………六

第九課 靖國神社……………二〇

第十課 汽船、汽車の發明……………二三

第十一課 音の旅……………二五

第十二課 箱根山……………二七

第十三課 旅行先の父に送る手紙……………三〇

第十四課 駱駝乘……………三三

第十五課 かぶりもの……………三五

第十六課 動物ノ體色……………三七

第十七課 養生……………四〇

第十八課 坂上田村麿……………四三

第十九課 空氣……………四五

第二十課 雨と風……………四七

第二十一課 水害見舞の文……………五〇

第二十二課 貯金……………五二

第二十三課 菅原道真……………五四

第二十四課 競馬……………五七

國語科教授要領尋常科第五學年

第二十五課 貨幣……………六〇

第二十六課 三才女……………六三

第二十七課 日光山……………六五

○教授錄

改訂國定教科書 國語科教授要領 尋常科 第五學年 目次終

改訂國定教科書 國語科教授要領 尋常科 第五學年

第一課 草薙劍 (一)

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

即 器 劍

改 婦 娘 盛 劍 孫 常

(2) 注意語句

三種の神器 いてや 由來 おきな 退治せん

第一課 草薙劍

時分はよし 一ふり 私す

二 内容的方面

- (1) 皇位繼承と三種の神器。
- (2) 素戔嗚尊老翁の話を聞かせ給ひし事。
- (3) 尊の智勇と大蛇退治。
- (4) 天叢雲劔の名稱の由來。

注意

- 一 指示の意、どの使用法。
- 二 歴史科と連絡。
- 三 勇武の氣象を養成すべし。

綴方

- 一 「三種の神器」を用ひて作文せしむ。
- 二 「時分はよし」「いでや」を用ひて。
- 三 一節を崇敬體の口語文に改作せしむ。
- 四 天照大神。

第二課 草薙劔 (二)

讀方

教授要項

- 一 形式的方面

第二課 草薙劔

(1) 新出文字

叛 叔母 至 勸 放 勢 難 滅 降 遂 是

(2) 注意語句

神宮 なかれ いざなふ 却つて 東國ことごとく

二 内容的方面

(1) 日本武尊の東征。

(2) 草薙劔の名稱の由來。

(3) 熱田神宮のこと。

注意

一 用言の下に來る「ば」の使用法。

二 歴史科と連絡。

三 修身書五學年用第二課と連絡し、十分皇室の恩惠を知らしむ。

四 神宮について。

綴方

一 「怠ることなかれ」を利用する短文。

二 「勸」「却つて」を用ひて。

三 「遂」「降参」を用ひて。

四 適宜の口語體の文を示して文語に改作せしむ。

第三課 花ノサマ

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

描 離 變 根 形 亦 總

(2) 注意語句

全ク ウス桃色 一リン咲

二 内容的方面

(1) 花の形状

(2) 花の附方

注意

一 理科と連絡し、成るべく種々の花の實物について教ふべし。

二 審美心の養成。

綴方

一 「描」「不描」を用ひて作文せしむ。

二 「全く」「變」を用ひて。

三 朝顔の花について。

四 一節を文語體に改作せしむ。

第四課 舞へや歌へや

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

舞 庭 樂

(2) 注意語句

宿れる やさしく たもと軽く いぬし 見あき
つ しらべ高く 色そふ こずゑ

二 内容的方面

(1) 春と胡蝶

(2) 春と小鳥

注意

- 一 理科と連絡して、審美心の養成。
- 二 暗誦に至らしめて、文學的趣味の涵養。
- 三 郊外散歩をなさしめ、兒童をして實際に春の風光を賞せしむ。

綴方

- 一 「春風渡る廣野」を用ひて文を作らしむ。

第四課 舞へや歌へや

二 「心ゆたかに歌ふ」を用ひて。

三 一節を口語體の普通文に改作せしむ。

四 蝶と小鳥。

第五課 註文狀

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

註文 狀 反 到 候 店 啓 送 期 以 以

(2) 注意語句

去月 縞物 右は なほ 紺がすり 見立 通運

便 申越

二 内容的方面

(1) 候體の日用文の認め方。

(2) 吳服について。

注意

一 候體初めて出づ。十分の注意を要す。

二 本課の手紙を實際の場合に用ふる體裁にして示すべし。

三 商業に關する知識を與ふる事。

綴方

- 一 「なほ」編物」を用ひて作文せしむ。
- 二 「期日」發送」を用ひて。
- 三 手紙の一を口語のものに改作せしむ。
- 四 大日本帝國。

第六課 利根川

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

古| 坂| 境| 數| 多| 流| 境| 橋| 増| 落| 河| 注|
 何| 餘| 關| 支| 船|

(2) 注意語句

坂東太郎 サ、ヤカナル 更ニ 名勝ノ地 風景
 ノ美 イハユル

二 内容的方面

- (1) 利根川の水源より海に注ぐまでの名稱。
- (2) 利根川沿岸の都邑、名所。

(3) この川の利便。

注意

一 「本流、支派、下流、貫流」等はすべて比較對照して授くべし。

二 地理科、關東地方と連絡。

三 河流、湖水の世を益する事を知らしむべし。

綴方

一 「坂東太郎」を用ひて短文を綴らしむ。

二 「數多」「名勝ノ地」を用ひて。

三 「風景ノ美」「運輸ノ便」を用ひて。

四 北白川宮能久親王。

第七課 水兵の母

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

尉 女 恥 餘 覽 攻 爲 話 毎 願 察
爭 令 會 敬

(2) 注意語句

第七課 水兵の母

ふるまひ 男子の面目 言葉鋭く かくべつ 君
に報ゆる 不自由 ふがひなきこと 日参 上官
安心

二 内容的方面

- (1) 一水兵が泣き居たること。
- (2) 大尉の叱責、水兵の答。
- (3) 水兵の母の手紙。
- (4) 大尉の説諭。

注意

一 候體の日用文の練習。

- 二 海軍についての知識を與ふる事。
- 三 修身科の第一課、第二課と連絡して、我軍人が忠勇なりしこと。

四 水兵の母の心事に深く同情せしむべし。(殊に女子に。)

綴方

- 一 「日本男子」「女々しいふるまひ」を用ひて作文せしむ。
- 二 「男子の面目」を用ひて。
- 三 水兵はなぜ泣いて居ましたか。
- 四 一節を文語體に改作せしむ。

第八課 我が陸軍

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

元帥 歩 力 騎 敏 友 等 技 兵糧 輕卒
能 箇 團 師 司 本

(2) 注意語句

義務 兵種 陣地 諸子 平時 そとばく 軍事
上重要なる地

二 内容的方面

(1) 兵役の義務

(2) 陸軍の兵種、將校

(3) 陸軍の編制と、師團司令部の配置

注意

一 軍事上の種々の用語に注意すべし。

二 本課は國民的教科にして、前課と連絡し、奉公の念を養ふべし。

三 昔の軍隊と比較し、及び海軍の兵種等のこととも知らしむべし。

綴方

- 一 「大元帥」を用ひて短文を作らしむ。
- 二 「陸軍の兵種」を用ひて。
- 三 「能く知る所」を用ひて。
- 四 陸軍の將校について。

第九課 靖國神社

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

軍 形 習 始 維 境 内 自 青 春 秋 興
 臨 行 且

(2) 注意語句

福運ヲイノル 古來 國事 花ノ雲タナビキ 配
 合オムモキ多シ 勅使 參拜 誰カハ義勇奉公ノ
 心ヲ起サザラン

二 内容的方面

(1) 靖國神社春の大祭。

(2) 靖國神社の由來。

第九課 靖國神社

- (3) 社殿と境内との模様。
- (4) 秋の大祭、臨時大祭。
- (5) 兩陛下の御仁慈。

注意

- 一 義勇奉公の念を養成すべし。
- 二 唱歌「靖國神社」と連絡。

綴方

- 一 「花ノ雲タナビキ」を用いて口語體の文を綴らしむ。
- 二 「花ハ櫻木人ハ武士」とはどんな意味ですか。
- 三 「誰カハ——起サザラン」を用ひて文語體の文の練習。

四 靖國神社にはだれを祭つてあるのですか

第十課 汽船、汽車の發明

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

蒸 應 成 | 最 初 直 | 初 廣 告 | 故 障 | 喜
 終 的 轉 | 競 走 |

(2) 注意語句

第十課 汽船、汽車の發明

不成功 氣をくじく 乗船の望に應じる 雲の如く しきりに あせつて見たが すさまじい

二 内容的方面

- (1) 蒸氣機關のこと。
- (2) フルトンが汽船の發明に至るまでの苦心。
- (3) チスブソンが日夜思を凝して汽車を發明す。

注意

一 汽車、汽船の發明が文明の進歩と密接に關係あること。

二 修身書五學年用第二十課、第二十一課と連絡。

三 困難と奮闘する意思を養ふべし。

綴方

- 一 「不成功」「氣をくじく」を用ひて作文せしむ。
- 二 「最初」「目的」「達」を用ひて。
- 三 「雲の如く集つた」を用ひて。
- 四 一節を文語體に改作せしむ。

第十一課 昔の旅

讀方

教授要項

第十一課 昔の旅

一 形式的方面

(1) 新出文字

街 宿 程 變 儀 泊 止 關 罰 力 費

(2) 注意語句

五十三次 急行列車 肩車 關所破 馬子 安樂

二 内容的方面

(1) 昔と、今との東海道旅行の比較。

(2) 交通機關の發達により、今日にては安樂に旅行出来ること。

注意

一 地理科と連絡。

二 封建時代の模様の概略。

三 前課と連絡して、文明の恩恵を知らしむ。

綴方

一 「旅費」「安樂」を用ひて短文を作らしむ。

二 一節を文語體に改作せしむ。

三 昔はどんなにして旅行したか。

四 神功皇后。

第十二課 箱根山

第十二課 箱根山

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

往 泊 湖 然 湯 舊 自然 驛 噴 倒 冷
下 久

(2) 注意語句

マタガル 通路 浴客 開通 轉變 ハカリ知ル
カ、リテハ ヨドミテハ

二 内容的方面

(1) 箱根の今昔と盛衰。

(2) 箱根一帯の地は太古の噴火山なりしこと。

(3) 時代推移して今は風景よき浴場となる。

注意

一 前課と連絡し、又地理科と連絡すべし。

二 火山の生因と、火山が温泉と關係あることとを知らしむ。

綴方

一 「人馬ノ往來」を用ひて文を作らしむ。

二 「開ケ行ク明治ノ御世」轉變を用ひて。

- 三 「舊道」ハカリ知ルを用ひて。
- 四 一節を口語體に改作せしむ。

第十三課 旅行先の父に送る手紙

讀方

教授要項

- 一 形式的方面

(1) 新出文字

由 | 最早 | 快 | 祖父 | 昨日 | 案

(2) 注意語句

拜見 入らせられ 一同 下さるまじく 何とぞ

- 二 内容的方面

(1) 父母兄弟等と離れ居る時は、よくその安否を問ふべき事。

(2) 父母に送る手紙には、自己及び自己の周圍の有様を委細に通知すべき事。

注意

- 一 書簡文には決して偽を書かざる事。
- 二 増太郎の父を思ふ情溢れたるをよく味はしむべし。

綴方

第十三課 旅行先の父に送る手紙

- 一 「最早」「全快」を用ひて文を作らしむ。
- 二 「祖父様」「朝顔の世話」を用ひて。
- 三 「御案じ下さるまじし候」を用ひて簡單なる候文を作らしむ。
- 四 「御待ち申上候」を用ひて同前。

第十四 駱駝乘

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

或 勇 飲 意 跡 往 空 逃 無 快 迎
發

(2) 注意語句

隊商 何くれと たとへんに物なし 砂煙は天を
おぼへり うかどひ ねんどろに 無事

二 内容的方面

- (1) 砂漠旅行と駱駝。
- (2) アリの砂漠旅行と困難。
- (3) アリ密に逃れて他の隊商の群に投じ遂に父と面會

せし事。

注意

- 一 本教材は英國の各種の讀本に出てたるものなり。
- 二 國狀異れども、アリの勇氣ありて父を思ひ、その父亦アリを思ふの情篤きを知らしむべし。

綴方

- 一 「たどへんに物なし」を用ひて文を綴らしむ。(文語體)
- 二 「ねんごろに」「快く」を用ひて。(口語體)
- 三 麥。

讀方

第十五課 かぶりもの

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

徒 結 唯 辛 笠 黒

(2) 注意語句

打ちたるはいと輕げ うるはしいたとき
 よそほひ 古風ゆかしき すたれ行く

二 内容的方面

第十五課 かぶりもの

(1) 冠り物の種類と、それを使用する人の夫々略一定せ
ること。

(2) 冠り物の材料、製法。

注意

一 面白き形式に於て、冠り物についての知識を興へ、以
つて常識を養はんとなす。

二 こそこの係結。

三 暗誦せしむ。

四 農夫を卑しまざるること。

五 鉢巻はあまりに下品なるを以つて之を爲さざる事。

綴方

一 一節を口語體に改作せしむ。

二 馬。

三 正直。

第十六課 動物ノ體色

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

第十六課 動物ノ體色

色 | 暗 | 周圍 | 保護 | 附 | 異 | 木 | 裏 | 惡 | 保

警戒 毒

(2) 注意語句

ヒソミ 一面 オソハル、スデニ サヘ 突出
武器 ミトメ

二 内容的方面

- (1) 動物の保護色。
- (2) その保護色の變ずること。
- (3) 動物が形態、身振をその周圍の物と紛るゝ様になすこと。

(4) 動物の警戒色。

注意

- 一 「オソフ」の活用形を知らしむ。
- 二 理科と連絡して、動物に前述の如きことあるは、自己保存を計るものなる事を知らしむ。

綴方

- 一 「ヒソミ」「オソフ」を用ひて口語體の文を綴らしむ。
- 二 「スデニ」「サヘ」を用ひて同上。
- 三 保護色。
- 四 警戒色。

色 暗 周圍 保護 附 異 木 裏 惡 俤

警戒 毒

(2) 注意語句

ヒソミ 一面 オソハル、 スデニ サヘ 突出
武器 ミトメ

二 内容的方面

(1) 動物の保護色。

(2) その保護色の變ずること。

(3) 動物が形態、身振をその周圍の物と紛るゝ様になす
こと。

(4) 動物の警戒色。

注意

一 「オソフ」の活用形を知らしむ。

二 理科と連絡して、動物に前述の如きことあるは自己
保存を計るものなる事を知らしむ。

綴方

一 「ヒソミ」「オソフ」を用ひて口語體の文を綴らしむ。

二 「スデニ」「サヘ」を用ひて同上。

三 保護色。

四 警戒色。

第十七課 養生

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

法 害 潔 清 衣 醫 相 談 勞 如 寢 空
散 注 罪

(2) 注意語句

飲食 熟せざる 入浴 ふせぐに足らん 不足

はぶく 過ぎたるは及ばざるが如し 野外 木立
しげき

二 内容的方面

- (1) 健康と飲食物。
- (2) 清潔と運動と睡眠。
- (3) 新鮮なる空氣と日光浴。

注意

- (1) 「なかれ」の使用法。
- (2) 格言、俚語は暗誦せしむ。
- (3) 本課より初めて抽象的材料を取扱ふ。

(4) 攝生上の諸條件は實行せしむる様にすべし。

綴方

- 一 「病は口より入る」とはなんの事ですか。
- 二 「衣服」「住居」「清潔」を用ひて作文せしむ。
- 三 「野外」「散歩」を用ひて。
- 四 一節を口語體に改作せしむ。

第十八課 坂上田村麻呂

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

住| 叛| 征| 定| 厚| 怒| 威| 薨

(2) 注意語句

征東將軍 功勞を立つ あくまで強く いつくしみ 皇威に服す かばかりの 御信任 守護

二 内容的方面

- (1) 蝦夷の叛服常なかりし事。
- (2) 坂上田村麻呂とその東征。
- (3) 天皇の御信任とその薨去。

注意

- 一 歴史科と連絡。
- 二 修身書、五學年用第八課と連絡して勇武の精神を鼓舞す。
- 三 田村麻呂が恩威共に施したる事に關聯して、粗暴に失すべからざる事を授く。

綴方

- 一 「叛」「平定」「功勞を立てました」を用ひて文を綴らしむ。
- 二 「さしものに」を用ひて同上。
- 三 「あくまで」「恩威」を用ひて同上。

第十九課 空氣

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

在 試 防 燃 供給 燈 吸 呼吸

(2) 注意語句

凡そ 進入 流通 若し空氣なからんには しひな

二 内容的方面

第十九課 空氣

(1) 空氣の存在。

(2) 空氣と燃燒作用。

(3) 空氣と生物。

(4) 空氣の流動。

注意

一 理科と連絡。

二 空氣あるを證する實驗を示すべし。

綴方

一 「空氣」存在を用ひて作文せしむ。

二 空氣の必要なること。

三 夏

第二十課 雨と風

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

静 煙 續 込 堤 果 更

(2) 注意語句

太平無事の世 しめやか もよほす 花の香 鳴

第二十課 雨と風

子・むら雀 物さびしい 冬木立 木枯の風 物
すごい 銀世界

二 内容的方面

- (1) 春の雨と風及び五月雨。
- (2) 夕立と、二百十日前後の大嵐。
- (3) 心地よき秋の風と、寂然たる秋の雨。
- (4) 寒風と、冬の雨、雪。

注意

- 一 文學的趣味に富みたる敘事法に注意すべし。
- 二 前課と連絡して、雨、風につき簡單なる理學的説明を

爲すべし。

- 三 雨、風は時には害あるものなれど、人生には極めて必要なるものなる事を知らしむべし。

綴方

- 一 「太平無事の世を利用して作文せしむ。
- 二 「木枯の風」を用ひて。
- 三 五月雨について。
- 四 夕立について。
- 五 一節を文語體に改作せしむ。

第二十一課 水害見舞の文

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

連 非常 承知 致 讀 當 終 退 村 堤防
救 直 母 減 異 押

(2) 注意語句

如何と案じ居り候 驚き入り候 損害 これなく
候 たゞならず 早がね 大半 全家 右御報申

上候

二 内容的方面

(1) 水害等に遭ひたる者には見舞を爲すべし。

(2) 水害の模様。

注意

一 「御」候の使用に習熟せしむ。

二 「候へば」の正確なる意義を知らしむ。

三 同情心の養成。

綴方

一 「非常」承知を用ひて短文の練習。

- 二 「かく別の異状これなく」を用ひて、候文體の練習。
- 三 「候へば」を用ひて。
- 四 「如何と案じ居り候」を用ひて。
- 五 「右御報申上候」を用ひて。

第二十二課 貯金

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

貯 高價 貯 預 拾 局 普 預 蓄 帳 收

(2) 注意語句

得ベク 安全 銀行 保存 貯ヘンコト タバシ

二 内容的方面

- (1) 貯金の必要と効用。
- (2) 貯金の方法。
- (3) 節儉と吝嗇。

注意

- 一 「ペシ」の活用と、正確なる意義とを教ふ。
- 二 勤儉貯蓄心の養成。

三 郵便局、銀行について正確なる知識を興ふ。

綴方

- 一 「安全」「保存」を用ひて作文せしむ(口語體)
- 二 貯蓄の必要。
- 三 一節を口語體に改作せしむ。
- 四 加藤清正。

第二十三課 菅原道真

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

主 別 悲 詩 到 片 朝 夕 歌 涼 賜
 昔 賜 篇 思 在 香

(2) 注意語句

東風吹かば あこそせよ あまつさへ いさどほり
 まれなりしが のみ 思をよせて いつしか 御
 衣 身に餘る面目をほどこす

二 内容的方面

(1) 菅公の罪無くして左遷せられし事。

- (2) 筑紫に向はるゝ途中。
- (3) 筑紫に於ける菅公。
- (4) 秋思の詩。

注意

- 一 秋思の詩は漢詩の形をも示し暗誦せしむ。
(東風吹かばの和歌も暗誦せしむ。)
- 二 歴史科と連絡し、公の誠忠を十分に欣仰せしむ。
- 三 天満宮の由來。

綴方

- 一 「あまつさへ」を用ひて口語體の作文練習。

- 二 「雨の朝風の夕」を用ひて。
- 三 「身に餘る面目をほどこしました」を用ひて。
- 四 菅公の忠誠について。

第二十四課 競馬

讀方

教授要項

- 一 形式的方面
- (1) 新出文字

競 | 手 | 選 | 各 | 是 | 並 | 構 | 甲乙 | 後 | 轉 | 添

第二十四課 競馬

吐落助傳

(2) 注意語句

神事 氏子 あびたどしい 祝詞 あひづ 今や
あそしと はずみ きもを冷して 見上げた 御
支配 おろか

二 内容的方面

- (1) 競馬について。
- (2) 五人の少年騎手の競馬。
- (3) 愛作と熊吉との競争。
- (4) 愛作の友情、熊吉を救ふ。

(5) 愛作の村が五箇村の支配權を握り、愛作は衆人に賞
讀せられし事。

注意

- 一 運動遊戯を問はず總て競争は、正々堂々と爲し、決して卑劣なる態度をとらざる事。
- 二 修身書第五學年用第九課と連絡して、義俠心を養ふべし。

綴方

- 一 「あびたどしい」を用ひて作文せしむ。
- 二 「今やあそしと待ち構へ」を用ひて。

- 三 「甲乙なし」轉がる」を用ひて。
- 四 「見あげた」を用ひて。
- 五 一節を文語體に改作せしむ。
- 六 和氣清麿。

第二十五課 貨幣

讀方

教授要項

- 一 形式的方面
- (1) 新出文字

幣 換 丙 腐 難 交 換 省 穀

(2) 注意語句

有無相通シ 望ム 分合 成分 流通

二 内容的方面

- (1) 貨幣の必要。
- (2) 古代の貨幣。
- (3) 金銀貨幣のこと。
- (4) 我國現行の貨幣、紙幣。

注意

- 一 「セバ」「ズバ」の未來形に注意すべし。

二 金、銀、銅の理科的説明、及び我國に於ける主要なる産地。

三 貨幣、紙幣は成るべく實物を用ひて教授すべし。

綴方

一 「交換」「有無相通」を用ひて文語體の文を作らしむ。

二 我國現行の貨幣、紙幣の種類を述べしむ。

三 一節を口語體に改作せしむ。

第二十六課 三才女

讀方

教授要項

一 形式的方面

(1) 新出文字

才 梅 袖 永 仰 歳

(2) 注意語句

色香も深き 問はば如何にと雲のまで 宮人ふ
み見ず 末かけて ささいの宮 つかうまつりし

二 内容的方面

(1) 平安朝の上流の婦人。

(2) 三才女の典雅。

注意

- 一 第一節は紀貫之の女の事蹟にして、大鏡等に出てたり。(勅なればいと問はし如何こたへんすの宿はと問はし如何こたへんすの)
- 二 第二節は小式部内侍の事蹟にして、袋草紙、十訓抄等に出てたり。(大江山まだいく野の道の遠けり橋立)
- 三 第三節は伊勢大輔の事蹟にして、袋草紙、詞花集等に出てたり。(古の奈良の都の八重櫻今日九重にほひぬるか)
- 四 全部暗誦せしむべし。

綴方

- 一 一節を口語體の散文に改作せしむ。

二 稻

第二十七課 日光山

讀方

教授要項

- 一 形式的方面

(1) 新出文字

盡 朱 結構 丹 唐 唐 善 建築 勝 回
賞 直 壯 耕 遊 紅葉

(2) 注意語句

第二十七課 日光山

雪と散り、玉と飛ぶ 美観 善盡し、美盡せり 天然
の美 名狀すべからず

二 内容的方面

- (1) 日光、東照宮の善美を盡せる事。
- (2) 日光附近の風景。
- (3) 遊覽者多きこと。

注意

- 一 歴史科と連絡して、徳川家康、家光等の事蹟を知らしむ。

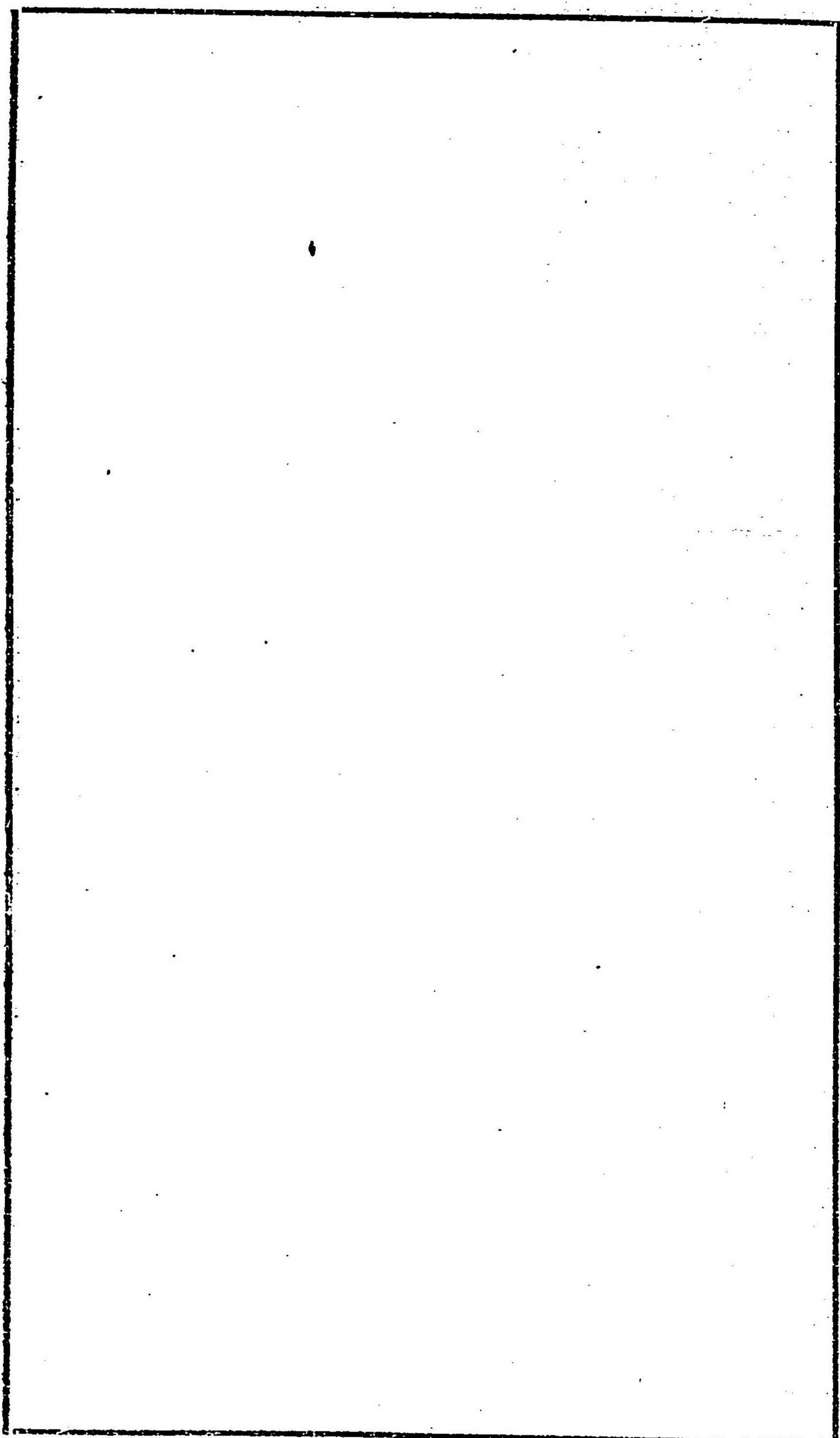
- 二 地理科と連絡して、日光附近の有様を知らしむ。

- 三 日光の東照宮は、建築彫刻等頗るよろしきこと。

綴方

- 一 「雪と散り、玉と飛ぶ」結構を用ひて口語體の文を作らしむ。
- 二 「建築」美観を用ひて。
- 三 「天然の美」「人工の美」を用ひて。
- 四 「名狀すべからず」を用ひて文語體の文を作らしむ。
- 五 「名勝の地」「遊覽者」を用ひて。

教 授 錄



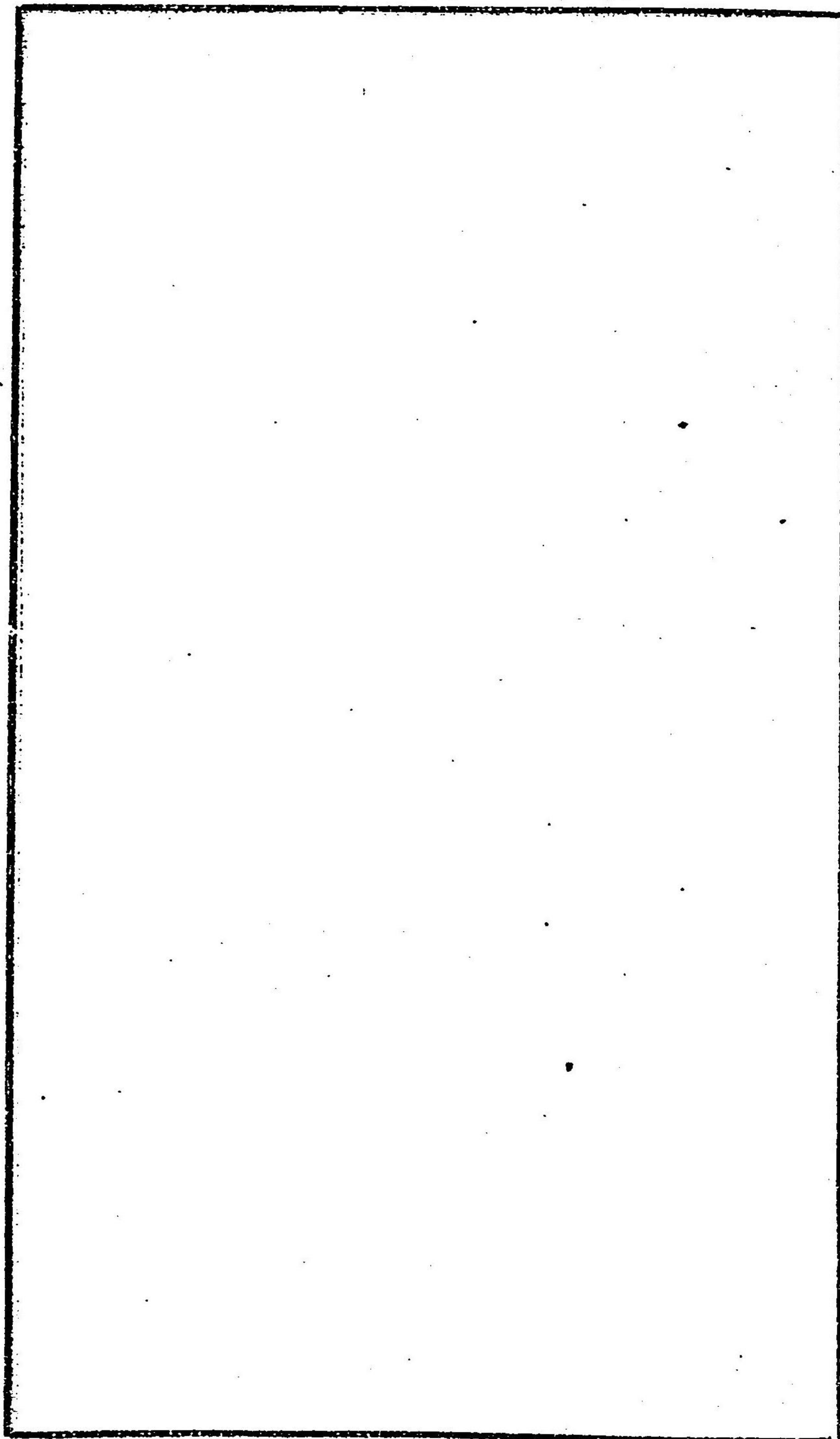
國語科教授要領尋常科第五學年

改訂
教科書

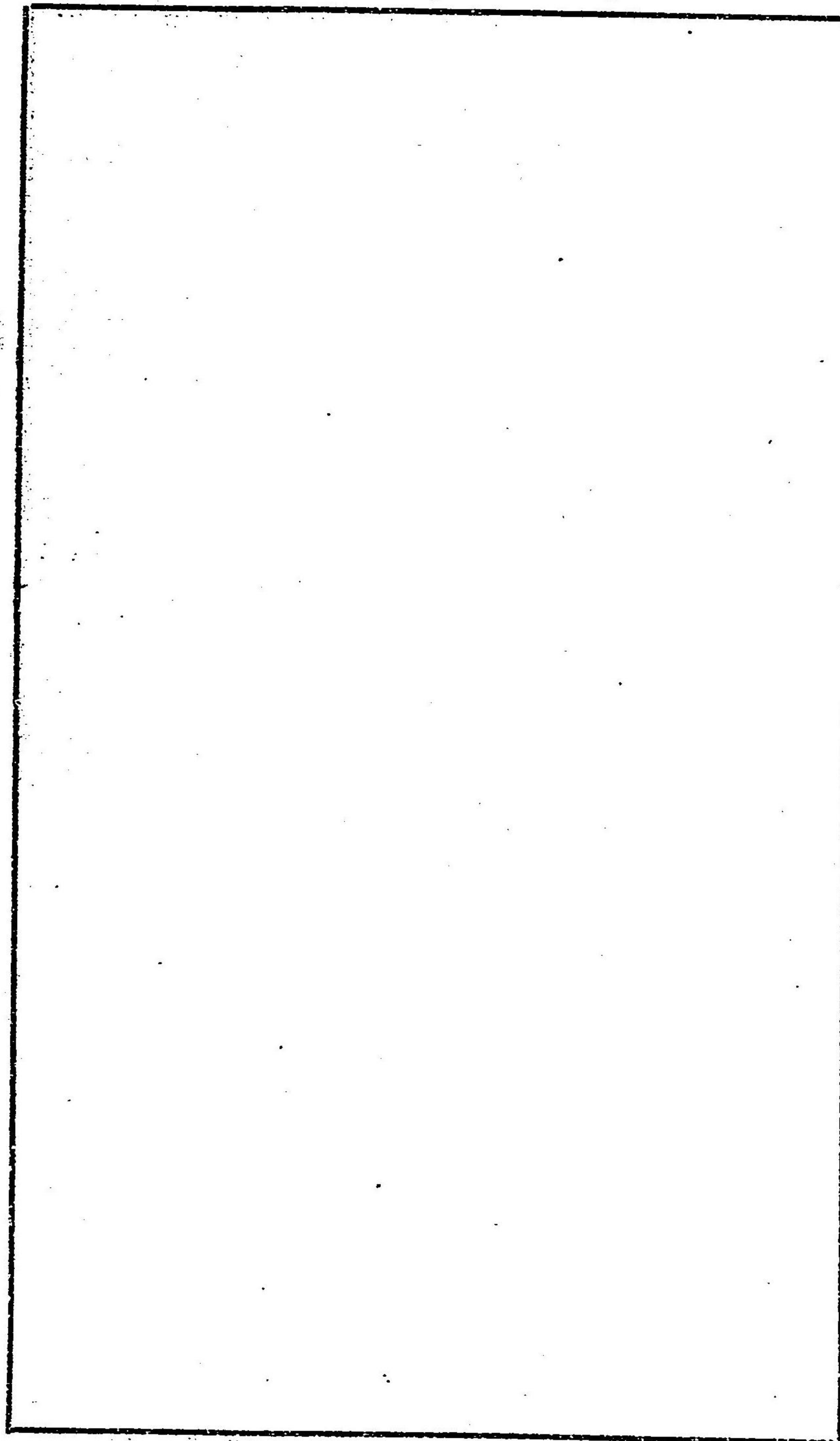
國語科教授要領

尋常科
第五學年
終

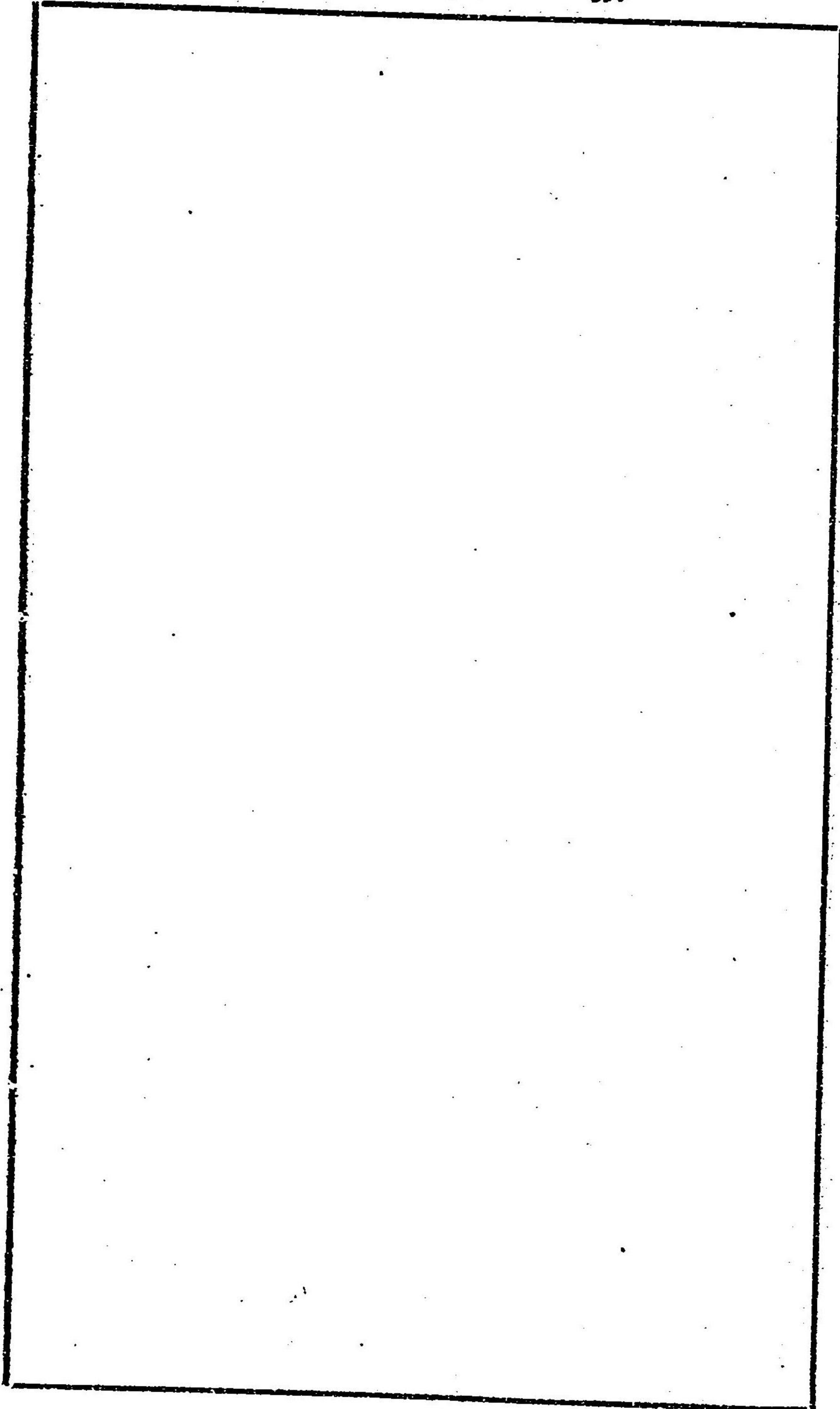
錄 授 教



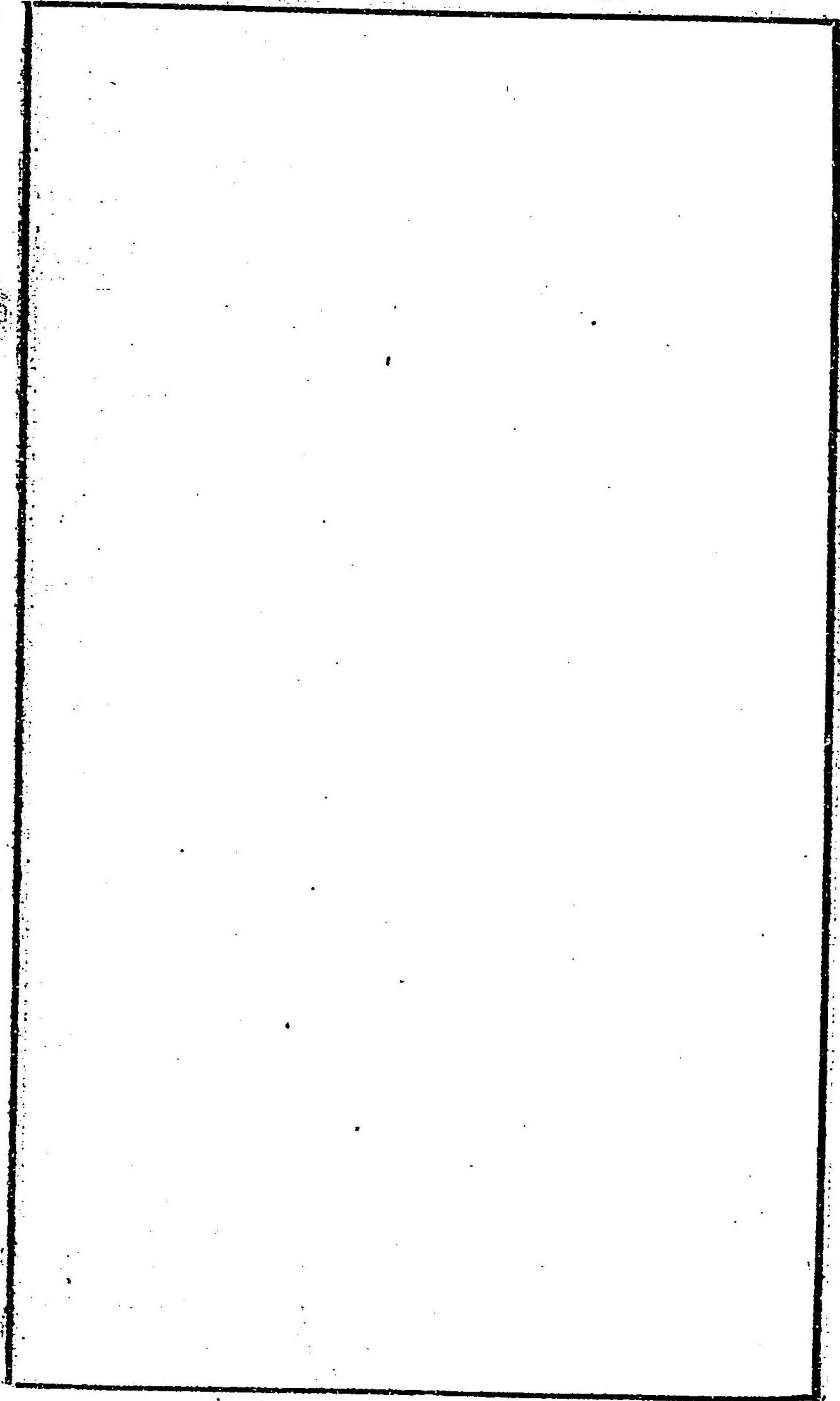
錄 授 教



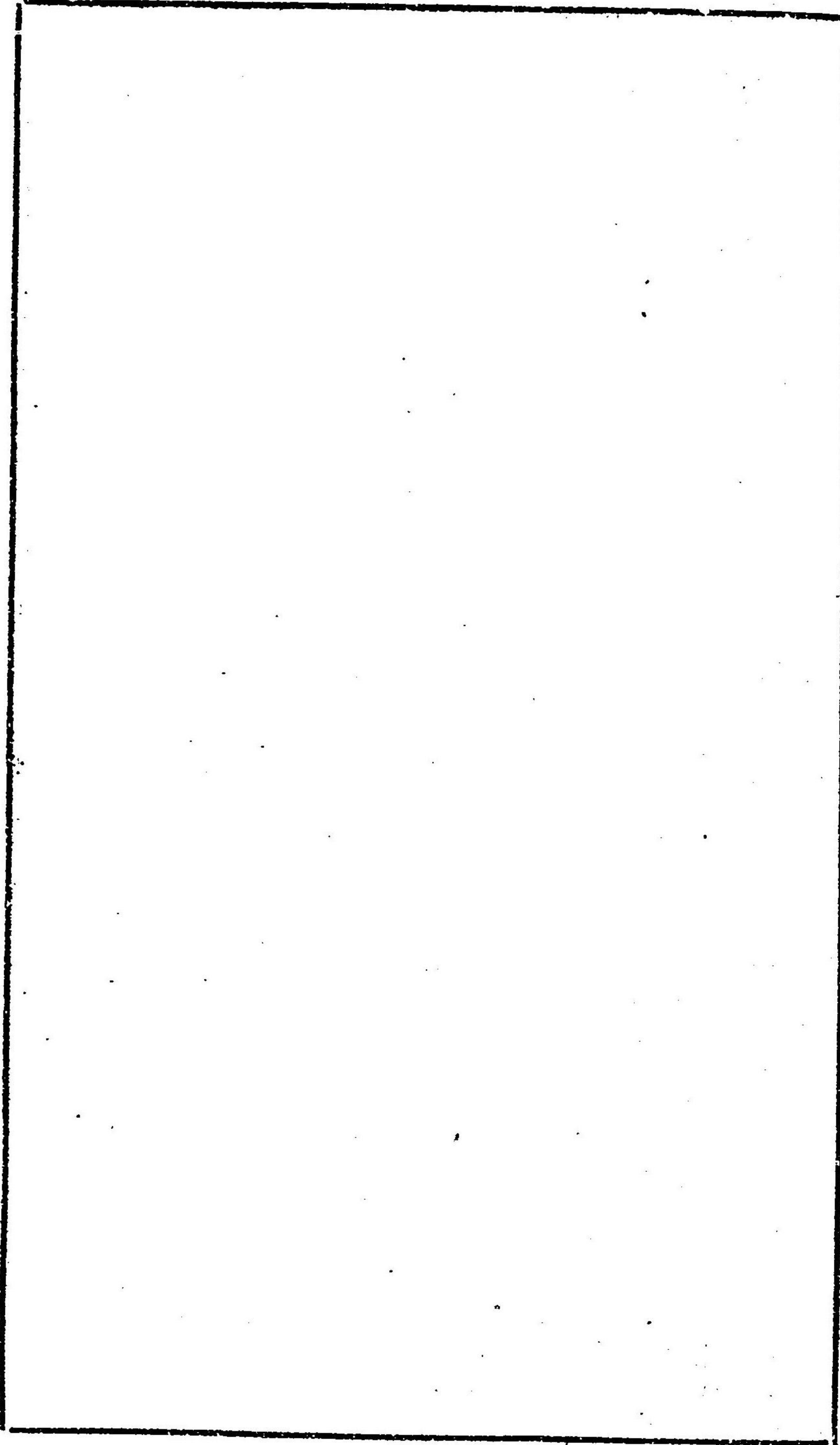
錄 授 教



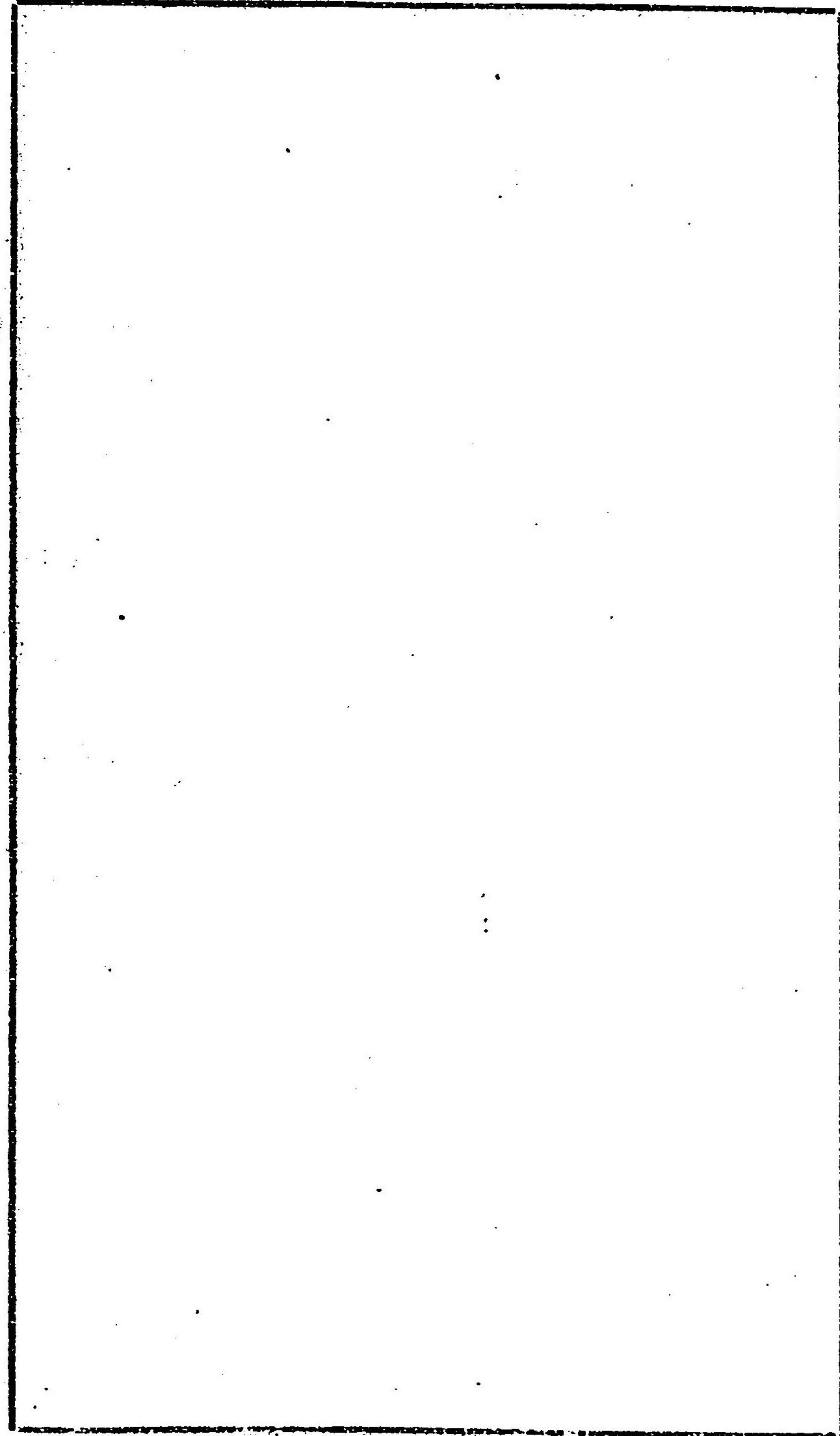
錄 授 教

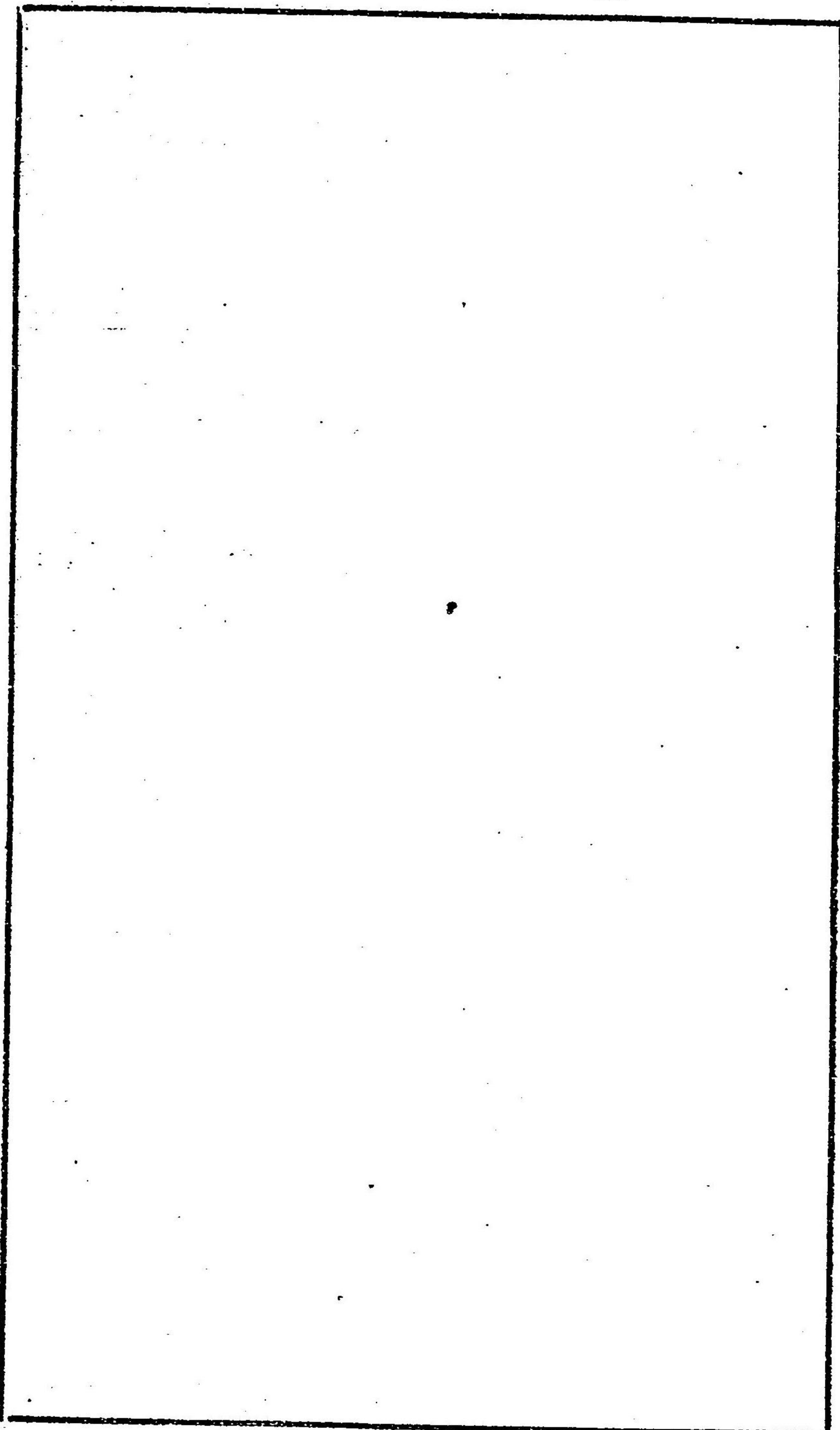


錄 授 教



錄 授 教





不 許 複 製

明治四十三年六月十五日發行

國語科教授要領奧附

定價金拾八錢

教育學術研究會編纂

發行者 森山章之丞

印刷者 青木弘

印刷所 株式會社 秀英舍第一工場

發兌

東京市神田區
表神保町貳番地

同文館

振替貯金口座 一三五番
電話本局四三七・一五三九番

教育學術研究會編纂

改訂國定教科書新教授細目

洋裝 金壹冊
定價金一圓二十錢
郵税金十 二 錢

一、小學教育の生命たる國定教科書も義務年限の延長と多年實施の結果とに鑑みて新たに改定せられ新學年より將に之が實施を見むとす實に是れ小學教育の實質上に於ける一大革新なり

一、此の時期に際し新教科書を活用して改定の趣旨を發揮し義務教育の完成を期するは小學教師諸君の一大責任たり而して教科書の運用を巧妙ならしめんためには須らく先づ完備せる教授細目の必要を思ふや切なり本書は即ち此の急要に應ずむがために生れたるものなり

一、本書の特色は何ぞ曰く新教科書に依れる曰く總ての教科目を包含せる曰く教授要項を詳記せる曰く教授用具を指定せる曰く教授上の注意を詳説せる曰く各

科相互の聯絡關係を明らかにせる曰く教授時間の配當を適切にせる曰く教科書なき教科目の教授細目を完備せる凡そ斯の如き特質を以て修身、國語、算術、地理、歴史、理科、圖畫、唱歌、體操、手工の各科に亘り從來未曾有の完全なる教授細目を得たる也

一、單に教材の配當表に過ぎざりし支離滅裂の從來の教授細目に比すれば蓋し雲泥月露の差あるもの小學教師諸君にして新教科書と本細目とを手になんか教案は忽ち成り新教育の美果を擧げ小學教育の完成を期するを得べきなり

一、本書は多年小學教育の實際に従事し常に小學教育の全體に對して思を凝らしつゝある幾多の教育家の合議立案に基づき各科に就きて夫々特殊の學殖を有せる實際家の分擔執筆に成り更に鄭重周到なる審議校訂を経て精練せられたるもの其の苦心の蹟は各科各教材につき歴々之を徴すべく其の特長は實地使用上に於て歴々發現せらるべし全國各小學校并に小學教師諸君は必ず一本を備へられざるべからず

東京同文館

東京高等師範學校教授
文學士 保科孝一先生著

國語學精義

書皮製全一冊
定價金二圓四十錢
郵税金拾六錢

言語學及び聲音學の輸入が國語學の進歩を促したることの著大なるは世の治く認むる處なり然れども之れを歐米におけるものに比すれば猶遠く及ばざるものあるは畢竟研究の方法未だ完からざるによる斯道に造詣深き保科先生夙に之を憂ひ本書を著し言語學及び聲音學上より國語に對する研究の方法を論じ國語學の過去を導り現在を叙し然る後將來國語の研究上採るべき指針を示し國語教育の進歩を促すべき方法を授け猶進んで國語問題を解決すべき手段を説くこと最も詳細を極め殆ど餘蘊なし斯程の著書は洵に空前にして學界の久しく渴望せしところなれば必ずやその裨益を與ふるところ尠からざるべし

東同文館

醫學博士 吳三宅 秀三
醫學博士 富士川 游 先生講述

教育病理學

布製全一冊
定價金一圓二十錢
郵税金十二錢

世の父母や學校教師たるものは、兒童の精神を教養開發すると共に、その身體をも健全に發育せしめねばならぬ。身體の虛弱なものや機能に故障のある兒童に對しては、それ相當の手加減を以て教育せねばならぬ、そうするには第一に、醫學上の知識が必要だ、就中、學業の劣等な兒童や低能生を取扱ふには、教育學上の知識よりも、却つて病醫學上の注意の方が肝要な位だこの書物は、兒童の身體の發育と疾病とに關して、學校及び家庭に於て注意すべきことが、親切に述べてある、いや、その取扱ひの方法までが平易に記してある。されば父母も教育者も將た醫師も、必ずこの長著を讀んで日常の參考としたならば父母として又教師としての責を完ふることが出來やうと思ふ我子を愛する世の父母親切な世の教育家は是非共一冊を備ふる必要があると思ふ

東同文館

前文部次官 澤柳政太郎先生著

我國の教育

布製 全一冊
定價金 二圓
郵税金 十二錢

激賞せる國民新聞評

著者が先年英京倫敦に於て演說せんとしたる講演草案に修正を加へたるものにして其の外に向つて述ぶるが如き部分を除きたるもの最も初等及中等教育に精しきは著者の意の存するところ殊に力めて道徳教育を詳述せるは我が教育の特色を外國に闡明するに於て最も其の法を得たるものと云ふべし日本文明史の大要より脱き起して日本教育の沿革に及び更に進んで日本教育制度の細節に入り之を闡明するに根本の思想傾向と社會の情態とを以てし精微殆んど到らざる無く記述材料亦遺す所なきに庶幾し

東同文館

前文部次官 澤柳政太郎先生著

第十版 學修法

四六美裝全一冊
定價金 八拾錢
郵税金 八錢

やまと評

學修法一篇はこれ前文部次官澤柳氏の著にして眞に天來の福音也著者の多年の經驗と獨創の見とは總て一大光明となりて發露せり其頭腦を病ますあらば速に來りて本書の治療を乞ふべきなりと亦

東京日日評

近來の出版書中本書の如く好評を博し本書の如く發行せるもの無し一般學生の參考書たるべきは勿論學生たる以上必ず一本を備ふべし言々句々時世に適切な教訓たるのみならず永久の眞理なり……

訂正改版後の本書は新に面目を一新せり曰く、東西古今のあらゆる格言を輯める記事と對照し以て日常の徳性涵養上に資し其他平易明暢の文章は今回の訂正によりて層一層の靈光を放てり學生諸君の一讀を要す

東同文館

米國ホルン博士原著
佐藤藤太先生譯

教育哲學

布製全一冊

定價金一圓二十錢

郵税金 八 錢

人或は教育、教授の學を目して千篇一律の學となす、蓋し誤れり。斯の學も亦た日就し月傳すること致て他の諸科學に譲らざるなり。請ふ教育學の歴史に載する所を見よ、その理想に於て、將た又その方法に於て古來幾變遷あり、これ蓋し時代の思潮に伴ふもの、特に世界觀人生觀の變遷の影響に俟つもの尠からず、近時斯の學は復々一變せんとす、將來の教育學は蓋し一個の又たるを免れずと雖も、その基礎一層廣潤たるべくして尙ほ且つ生命あり、活氣ある者たらんことを需むべきは疑なし。本書は廣くその基礎を生物學、生理學、社會學、心理學に求めて縱論橫議、最後に教育の哲學を論じて全篇を結べり、蓋し將來の教育學の急先鋒たるものか、原著者は少壯の新進學者にして、行文活氣に充ちて生命あり、譯文亦た流麗、加ふるに谷本博士の正斧を経て益々その光彩を放てり。新思潮に伴ふ新教育の本義を知らんとするものは須らく本書に就け。

東京同文館

文學士 上野陽一先生 共著
文學士 野上俊夫先生 共著

實驗心理學講義

背皮製全一冊

定價金 參 圓

郵税金十 二 錢

一、日本に於ける實驗心理學著述の嚆矢なること 二、實驗と云へばむづかしき器械を運轉する事と考へられ居るに對し本書は小學教師諸君のために殆ど器械を要せざる簡易實驗法を工夫して之を示したること 三、成るべく教育上及び處世上の問題に觸れたること 四、精巧なる木版と鮮麗なるプレートとを以て説明を助けたること 五、實驗の例として擧げたる記録・結果及び曲線等の大半は著者自身が東京及京都大學の心理學實驗室に於て實驗したる結果にて西洋の人が西洋の人に就きて實驗し得たる結果を直ちに翻譯せるものとは價値に於て雲泥の差あること 六、謂はゆる合著にあらず著者各專攻の部面を分擔し通俗平易の筆を以て面白く解説せること 七、在來の類書に見ざる詳細の索引を附して搜索の便にしたること

本書の七の特色

東京同文館

文學士 田中義能先生著

系統的西洋教育史

背皮製全一冊
定價金 貳圓
郵税金十 貳錢

本書は斯學に造詣深き田中先生が上下三千年西洋各國に行はれたる教育の學理と實際とを論述せられたるものにして從來の教育史が多く事實を羅列せるに反し重きを思想の聯絡と事實の關係とに置き精確なる材料に基き之れを系統的に先生が博識と得意の雄健なる行文を以て明快に論述せられたり本書は先生が我が出版界に完全なる科學的教育史なきを明治學界の恨事なりとし幾多の歲月と辛苦とによりて始めて大成せられたる者にして實に西洋教育史中の翹楚たり

東同文館

459

Vertical text on the right page, possibly bleed-through or a stamp.

